

【落差工設計作業項目内訳表】《基本設計》

作業項目	作業内容	作業実施欄	
		当初	変更
1 現地調査	基本設計に必要な調査を行う。 (補足説明) 路線計画設計(基本設計)時に実施した現地調査結果の確認を行う。		
2 資料の検討	基本設計のための資料収集及び貸与資料の内容を把握する。		
3 設計計画			
3-1 基本条件の検討	概略実測資料に基づく水理構造条件を決定する。 (補足説明) 貸与資料、現地調査等から指示する基本条件を 1/1,000 地形図で検討し、決定する。		
3-2 型式、規模及び構造の検討	型式規模構造を比較検討し、概略を決定する。 (補足説明) 水理縦断面図に示す水頭配分に基づき型式、規模及び構造について 2 ケースを立案し、立地条件等から比較して決定する。		
4 水理計算	型式、規模決定のための水理計算を行う。 (補足説明) 上流取付水路から下流取付水路までの水理諸元の計算を行う。		
5 構造検討	標準断面図についての構造計算を行う。		
5-1 構造計算	(補足説明) 標準断面を対象に構造計算を行う。		
5-2 構造図作成	構造一般図、構造図、配筋図を作成する。 (補足説明) 構造計算の対象である標準断面について構造一般図、構造図、配筋図を作成する。		
6 土工図作成	切盛土量、法面保護工長を記入した土工図を作成する。		
7 数量計算	土工、コンクリート、鉄筋、型枠、附帯施設等の概略数量計算を行う。 (補足説明) 標準断面における土工、コンクリート、鉄筋量、型枠量を算出し、箇所当たりの数量を求める。		
8 施工計画	工程計画、施工法、順序等についての骨子を作成する。		
9 特別仕様書作成	主要なものについて特別仕様書を作成する。		
10 概算工事費積算	主要単価を作成し、概算工事費を算定する。 (補足説明) 近傍実施単価を参考に主要単価を作成し、工事費を算定する。		
11 総合検討	前項までの作業について総合的な検討を行い、今後の作業についてコメントを付記する。		
12 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。		
13 点検取りまとめ	成果資料の点検、取りまとめを行い、報告書を作成する。		

【落差工設計作業項目内訳表】《実施設計》

作業項目	作業内容	作業実施欄	
		当初	変更
1 現地調査	実施設計に必要な調査を行う。 (補足説明) 路線計画設計(実施設計)時、基本設計時に実施した現地調査結果の確認を行う。		
2 資料の検討	実施設計のための資料収集及び貸与資料の内容を把握する。		
3 設計計画			
3-1 基本条件の検討	詳細実測資料に基づく水理構造条件を決定する。 (補足説明) 貸与資料、現地調査等から指示する基本条件を 1/500 地形図で検討し、決定する。		
3-2 型式、規模及び構造の検討	型式、規模、構造を決定する。 (補足説明) 水理縦断面に示す水頭配分に基づき型式、規模及び構造について立地条件等を十分考慮して決定する。		
4 水理計算	実施断面の水理計算及び各種損失水頭の計算を行う。 (補足説明) 基本設計の水理計算をチェックし、水理諸現象の水理検討を行い、安全性の検証を行う、また、水理諸条件が周辺環境に与える影響について検討を行う。		
5 構造検討			
5-1 構造計算	各断面図についての詳細構造計算を行う。 (補足説明) 上流取付水路、水クッション部、下流取付水路毎に構造計算を行う。		
5-2 構造図作成	構造一般図、構造詳細図、配筋図、鉄筋加工図を作成する。 (補足説明) 構造詳細図とは構造図の他に施工上必要な基礎工及び附帯・附属施設、箱抜等を記入する図面をいう。		
6 土工図作成	施工法区分(単価区分)毎の切盛土工量、法長、敷地幅等詳細図を作成する。 (補足説明) 流用土、搬出土(捨土)、搬入土(購入土)等が算定できる図面を作成する。		
7 数量計算	土工、コンクリート、鉄筋、型枠、附帯施設等の詳細数量計算を行う。 (補足説明) 数量計算運用規定に基づいて数量計算を行う。		
8 施工計画	工程計画、施工法、順序等についての詳細計画を作成する。		
9 概算工事費積算	各工種の単価を作成し、概算工事費を算定する。		
10 総合検討	前項までの作業について総合的に検討し、工事実施のための点検を行う。 (補足説明) 前項までの作業について総合的に検討し、工事実施に当たり必要なコメントを付記する。		
11 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。		
12 点検取りまとめ	成果資料の点検、取りまとめを行い、報告書を作成する。		